

巻頭言

研究を他の人に伝えるために

コミュニティ福祉学研究科委員長 三本松 政之

この研究科紀要は、大学院での研究の成果を取りまとめ研究科内だけではなく、広くそれぞれの分野の研究者などに知ってもらい、その成果を問う役割を担っています。この号においてもこれまでに積み重ねられてきた研究の成果がまとめられています。もちろん、研究成果を問う場合は、紀要だけではなく、学会誌や学会発表という場もあります。本誌は査読制度が設けられていません。そのことの良し悪しはここでは置くことにして、紀要の持つ良い点があります。それは自分の成果を自ら投稿する意思があれば必ず執筆することができ、自分の研究成果を多くの方に読んでもらい、問うことができるということです。また活字化することによって自分の研究成果を客観視する機会になります。

多くの院生の人にとっては、この紀要が最初に自分の書いた原稿を活字にする機会になっています。自らの成果を論文として世に問うということですが、その際に求められるのはどのようなことでしょうか。以前にもこの巻頭言で触れたことがあります。日本学術振興会の科研費補助を受けるときの申請書を参考にしてこのことについて考えてみたいと思います。

求められるのは「研究課題名」「研究目的、研究方法など」「研究課題の核心をなす学術的『問い』」「研究の目的および学術的独自性と創造性」「本研究の着想に至った経緯など」についてです。ここではまず「研究目的、研究方法など」について見てみます。これはさらに「(1) 本研究の学術的背景、研究課題の核心をなす学術的『問い』、(2) 本研究の目的および学術的独自性と創造性、(3) 本研究で何をどのように、どこまで明らかにしようとするのか、について具体

的かつ明確に記述すること。」が求められています。研究であるからには、選択したテーマが学術的にどのように位置づけられるのか、そして「研究課題の核心をなす学術的『問い』」は何かを記すことが求められます。この問いは次の「研究の目的および学術的独自性と創造性」に繋がっていきます。研究であれば、研究の独自性や創造性がどこにあるのかが問われます。単に先行研究をまとめただけでは、独自性を見いだすのは難しいといえます。次いで「本研究で何をどのように、どこまで明らかにしようとするのか」が求められます。投稿論文においては決められた文字数の中で論じられることは限られてきます。自分が今書いている論文で書こうとしていることをまずどのようなアプローチで明らかにするのか、研究の枠組みをきちんと示したうえで、論文で書くことの範囲を自覚して書くことが求められます。

さらに申請様式では「本研究の着想に至った経緯など」が続き、そこでは「(1) 本研究の着想に至った経緯と準備状況、(2) 関連する国内外の研究動向と本研究の位置づけ」を記述するようになっています。読者に研究の位置づけを伝えるためには、着想に至った経緯を説明し、それが単なる思い付きではなくこれまでの研究に裏付けられていることを示すために準備状況が問われます。いうまでもなく、独りよがりの論文としないためには国内外の研究動向について先行研究のレビューをし、その中で自らの研究の位置づけと独自性を示す必要があります。このほかに「人権の保護及び法令等の遵守への対応」なども求められます。

さて、本号に投稿された方々は上述した点を

研究を他の人に伝えるために

どのくらい満たすことができたでしょうか。論文を書くことは、例えばスポーツでの競技力を向上させるためには、絶えざる練習が求められることは当然のことと理解されます。しかし、

このことは論文の執筆においても同じです。上述したポイント押さえながら本紀要を活用して絶えざる努力のもとに執筆力を向上して下さることを期待しています。